

令和元年度 第1回学校評議員会 実施報告

日時：令和元年6月25日（火）12:10～

場所：雫石高等学校会議室

委嘱状交付（校長室にて）

授業見学（3校時 11:10～12:00）

出席者	評議員	三河千春	雫石高校教育振興協議会長
		松原宏樹	雫石商工会青年部長
		藤村篤	盛岡西消防署雫石分署長
		柿木典子	雫石町社会福祉協議会事務局長
		大倉徹	雫石中学校長
	雫石高	小原由紀	校長
		千葉靖久	副校長
		菊池政善	事務長
		田浦聡	総務主任
		亀山純史	教務主任
		小松原清敬	進路指導主事
		佐藤秀明	保健主事

1 開会

2 校長挨拶

3 教育活動の概況説明

- ・令和元年度学校経営計画（校長より説明）
- ・教育活動の概況（各主任より説明）

4 ご意見・提言

- ・生徒同士コミュニケーションよく生き生きした授業を拝見した。
アットホームな高校生活が生徒の将来の財産になる。
- ・岩手山ファミリーマラソンでは中学生・高校生と一緒にボランティア活動に参加した。
7月18日には、雫石中学校で雫高生が全国レベルの郷土芸能を披露する予定である。
このように中学生と高校生と一緒にできる活動を増やし互いの成長の機会としてほしい。
- ・雫高での「細やかな指導」が地域の中学生、保護者に周知されてきている。
志を育て、学習と部活動に集中できる高校であることが、いっそう伝わってほしい。
- ・PTAと先生方、生徒が、人数が少ない中で楽しくやれるのが少人数のよいところである。
- ・少人数のデメリットは、たとえば2人の野球部員を合同練習に引率する教員の負担など、部活動を絞っていく方向の検討を要する。
- ・表の自転車置き場の支柱が錆びている。表側なのできれいにしてほしい。
生徒たちに教えながら錆び取りを実施してほしい。
- ・少ない人数なので、授業の中でも一人ひとりの生徒が教員と会話できる時間が多い。

コミュニケーションがよくとれ、生徒はきめ細かく手をかけられていると感じた。
教室もゆったりしていてよい。

- ・消防署による救急救命講習では、生徒は一生懸命で、積極的な受講態度がすばらしかった。消防署員に「教える」「伝える」技術をより高めたいという刺激を与えられた。
- ・入学式で初めて雫高に足を踏み入れ、今日初めて授業を拝見した。
アットホームな授業でコミュニケーションがよく、にこやかにスムーズに進められている。特に1年生たちはにこやかだった。
- ・雫石高校は、地域資源を使って部活動がすばらしいというイメージ。たとえば、郷土芸能、スキー、御所湖のボートなど。地域資源を活用して登山部があればよいのでは。
- ・雫石商工会青年部は、インターンシップやボランティアなど、何でもお手伝いするので、話をいただきたい。雫高生と交流を持っていきたい。
- ・高校を卒業したが仕事が長続きせず在宅状況にある、という事例が増えてきている。少子化で「手をかけて」社会に出すようになってきているが、「自分で考えて行動する」生徒を育てる必要を感じている。
- ・仕事が長続きしない人たちを見ると、若者のコミュニケーション能力の低下を感じる。体験学習やボランティアなど、多くの人とかかわって、コミュニケーション能力を養成してほしい。

校長より謝辞

5 閉会



授業参観：1年1組コミュニケーション英語Ⅰ



授業参観：1年2組英語表現Ⅰ